

編集後記

- ◆8年ほど前の早朝の出来事でした。急ぎ足で最寄り駅に向かい、改札口への階段を登りきったあたりで、今まで経験したことのない締めつけられるような胸の痛みを感じました。念のため、1週間後に病院で診察を受けたところ、「ほぼ間違いなく狭心症ですね」と医者からの一言。その後しばらくは、100mほど歩くと立ち止まって休憩しないと胸が苦しくなるという情けない有様でした。しかし、人間の体とはよくできたもので、毎日少しずつ歩く距離を伸ばしていると、心肺能力も増し、自宅近くの谷津干潟1周3.5kmをゆっくりと完歩できるようになりました。今では治療の甲斐あって普通に生活していますが、継続することの大切さを改めて実感したのを記憶しています。
- ◆今号は、「設立10周年・台風災害」特集を組みました。当センターが10年前に再建されて以降、合言葉のように「3年間はなんとしても継続しよう」とささやきあって活動してきました。それ以前にも、2回にわたって自治研センターが立ち上げられましたが、ともに3年足らずで活動は休眠状態となってしまいました。いくつか大変なこともありましたが、一步一步積み重ねながら10周年を迎えることができました。これまでお支えいただいた多くの皆様のおかげで今日まで歩んでこられました。誠にありがとうございました。
- ◆昨年の9月から10月にかけて発生した台風15号・19号、10月25日の大雨は、千葉県にも甚大な被害をもたらしました。近年、千葉県を直撃する台風がなかったこともあり、台風に対する備えは決して十分とはいえません。今後も千葉県への台風上陸が想定されうるといわれていますから、今回の経験を教訓化して、どのように次に受け継いでいくか、緊急かつ息の長い取り組みが求められています。
- ◆今号の台風特集では、君津市長のインタビューのほか、3名の方に執筆いただきました。今回の特集が台風・大雨災害の経験を語り継ぎ、風化に抗う取り組みの第一歩となることを切に願っています。今後、当センターとして千葉県内の市町村における被災状況の調査を予定しています。設立10周年の原点ともいえる「つなげること」の大切さを心にとめて、これからの事業を進めていきたいと考えています。

事務局長 佐藤 晴邦

自治研ちば 既刊案内



2019年10月
(vol.30)

- 巻頭言 元衆議院議員（千葉県地方自治研究センター顧問） 若井 康彦
- 千葉県地方自治研究センター 講演会
市民が進める自治体の条例づくり ～人権と福祉の事例を中心に～
地方自治総合研究所 委嘱研究員 菅原 敏夫
- 市議会報告
千葉市を「日本一の電子市役所」へ、挑戦！ 千葉市議会議員 麻生 紀雄
- シリーズ「千葉から日本社会を考える」
参議院選挙後・令和の時代の日本の課題とは？
平成「政治・行政改革」後の「自治」を考える
島根県立大学名誉教授 井上 定彦
- 自治研センターレポート
第25回参議院通常選挙を振り返って 研究員 井原 慶一
- 企画記事 香取市の公共交通の現状と課題
香取市役所 総務企画部企画政策課 主査 安原 寿和
- 公共の担い手 銚子のまちを元気に！「ジオパーク市民の会」活躍中
銚子ジオパーク市民の会 会長 工藤 忠男
- シリーズ千葉の地域紹介 進み続ける国際都市・成田 成田市広報課
- 新聞の切り抜き記事から 研究員 井原 慶一
- 今期の入手資料 編集部
- 一般社団法人 千葉県地方自治研究センターの概要（会員募集）
- 編集後記 事務局長 佐藤 晴邦

バックナンバーの申し込みは当研究センターまで 1部800円

自治研ちば VOL.31

2020年2月19日発行

発行 一般社団法人

千葉県地方自治研究センター

〒260-0013 千葉市中央区中央4-13-10

千葉県教育会館新館6階

自治労千葉県本部内

TEL 043-225-0020

FAX 043-225-0021

編集 佐藤 晴邦

印刷 (株)メロウリンク企画

頒価 800円（送料別途）